

江戸つ子金看板

帝キネ時代映畫

原作並脚色者 帝キネ
監督者 山下秀一
撮影者 白島量
主要役割
俠客金看板 結城重三郎
子分破鐘の岩松 西條重三郎
おいとこ宗太 岩井竹徳
心學者宇堅心猿 團井徳麿
源次 櫻井非麿
妹お米 歌美陽子
俠客紫組圓左衛門 片桐恒三
子分お女直 長田芳雄
萬龍圓小西屋伊兵衛 大野三郎
源お照 望月禮子
解説 山下秀一氏の「女天一坊」に次ぐ作品である。
略筋 男がよく氣前がよくその上心學者實は

高利貸の宇野心猿なからか、事の上手な未曾の甚五郎、櫻風呂で暗くも眠み合ふことになつたのは皆から嫌がられてゐる紫組の圓左衛門だつた。賣られた喧嘩の果し合ひの制限を約束して来た夜、捕手に追はれた源次が飛び込んできての命乞ひ、聞いてみるに酔つぱらつて樂問屋小西屋伊兵衛の方の裏手で自分で七首を持つて目が覚めたら死體の傍で自分が七首を持つてゐる母が待つてゐる、どうか助けてと云はれてみれば唯さへ依氣滿々の甚五郎、三日を限つて源次の身代りとなつて曳かれて行つた。源次を殺して了へば甚五郎はなんぞも、これは占めたさ紫組一味が待ち受ける伊豆の便船、驚いて駈けつける心猿先生と甚五郎の乾分岩松、宗太だが圓一髪に源次は着いた。まことの男伊達甚五郎の名はわづこ上つた。丁度その日小西屋が新調した豪華な金看板、忽ち江戸名物となつて誰いふとなく二つの名をくつけて金看板甚五郎の名がもてはやされた。こゝが當の甚五郎は源次とその妹から頼まれた真犯人捜査の難事、これを片づければさ紫組の悪罵、乾分の侮蔑をこつと堪えて堅氣となり、岡つ引清八の使氣を頼みに八方手を盡したが依然五里霧中だつた。



寫眞 「江戸つ子金看板」帝キネ山下秀一作品
右より平塚泰子と結城重三郎。

がつかりして憂さを晴らす酒の席、隣席から聞える紫組身内女郎直の話に彼は愕然驚喜した。真犯人は判つた。だがそれをあはくのは恩人小西屋の昔の暗い事がさらけ出されるのだ。流石の甚五郎もはたさ行詰つたが、遂に自分の命を捨て、かゝつた方法が果然くる、さうまく開けて行き萬事解決、江戸つ子金看板の名は幡隨院以来の男伊達さして輝いた。